



Title	??? Why did you buy what?について
Author(s)	葛西, 清藏
Citation	北海道大學文學部紀要, 43(2), 127-141
Issue Date	1995-02-28
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/33643">http://hdl.handle.net/2115/33643</a>
Type	bulletin (article)
File Information	43(2)_P127-141.pdf



[Instructions for use](#)

# ?/?? Why did you buy what? について

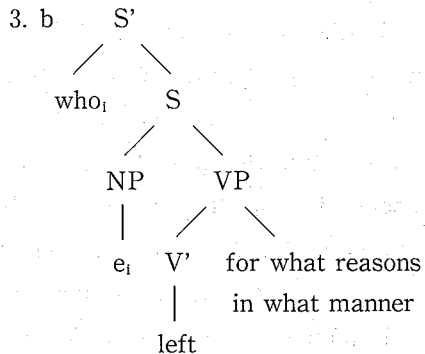
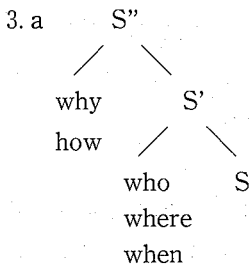
葛西清藏

0. 小稿は表題の文がなぜ許容されないのかを考えようとするものである。

Kuno/Takami (1992) は,

- 1. a \* *Who left why/how?*
- b \* *What did you do why/how?*
- 2. a *Who left for what reasons/in what manner?*
- b *What did you do for what reasons/in what manner?*

の例文を説明するために,



を考え、*why*, *how* は S" に支配され、*for what reasons*, *in what manner* は VP に支配されるとする S"-*Wh Hypothesis* を提案した。ところが、

- 4. a \* *What* did you buy *why*?
- b *What* did you buy *when*?

は、S"-*Wh Hypothesis* で説明されるが、

- 5. a ?/?? *Why* did you buy *what*?
- b *When* did you buy *what*?

の 5.a は、S"-*Wh Hypothesis* を侵していないにもかかわらず許容されない文となっていることが説明されない。これを説明するためにつぎの hypothesis をたてる。

- 6. *Sorting Key Hypothesis*: In multiple *wh* question, the leftmost *wh*-word represents the key for sorting relevant pieces of information in the answer.

本稿は、*why* の性質を検討し、なぜ *why ... wh-?* が許容されないのか、また、*Sorting Key Hypothesis* はより大きな制約の一部でありそれとしては multiple *wh* question には必要ないのではないか、最後に、*why* と *for what reason* のちがいについて述べようとするものである。

まず、1 では *why*, *probably* とともに、S" に支配されていることから、*why*, *probably* は、文全体にかかるものであり、文の存在を前提とするものであることを確認する。ここから、*wh-* が複数ある時、*why* が文頭にでることはないことをみる。2 では、'in multiple *wh* question' という条件付きの *Sorting Key Hypothesis* は、複数の *wh-* についてのみおこる問題ではなく、(1. とも関連するが)「質問はできるだけ、特定の (*specific*) でなければならない」

?/? Why did you buy what? について

というより一般的な制約の一部であることをみる。3. では, why と for what reason の機能的なちがいから, why ... wh-? が許容されず, for what reason が許容される理由をのべる。4. は補足とまとめである。

1. まず, why の性質を考えてみる。

1.1 7. Why so?/Why not?/Why yesterday?/Why in Boston?

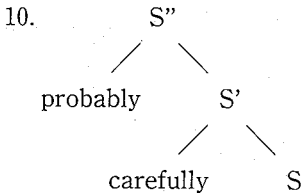
8. a Probably so./Probably not./Probably yesterday./Probably in Boston.

b \*Carefully so./ \* Carefully not./ \* Carefully yesterday./  
\* Carefully in Boston.

9. a Probably in London John drove a car.

b \*Carefully in London John drove a car.

Kuno/Takami (1992) はこれらの文の平行性と違いから, つぎの 10 を考える。



3. a, 10. からはっきり示されているように, 「why, probably はおなじく S'' に支配されており, 文全体にかかる性質のものである」。これはきわめて重要なことであり, 確認しておきたい。

1.2 why は, 文全体にかかるものであるということは, why to~という表現がほとんど不可能 (probably impossible) (Bolinger 1978: 118) であることとも関連する。「why は本来文全体を修飾する副詞であって, 動詞だけにか

かることはなく、したがって不定詞だけと概念的に結びつくことは多かれ少なかれ困難を伴う」(石橋ほか, 1964 : 473)のである<sup>1)</sup>。Bolinger (1978 : 118)はその理由について, 'The impossibility of *why* responds to the hypothesized meaning: the reason for choice precedes the choice; it is not part of it.' という。「あることをするには、それに対する理由がまずあるはずである」というのが主旨である。別の言い方をすると、「あることをした」という事実があつてはじめて、それに対して「そうしたのはなぜか」と理由を問うことができる。

このことは、

11. How were they informed *and why*?  
 Who did he hit, *and why*? Quirk et al. (1985: 823)
12. a Where did you go *and why*?  
 b ?? *Why* did you go and where?

のような例によつてもわかる。11には how, who, 12には where に答えが与えられたあと、最後に命題全体に対して、'why' と問いかけることは可能である。go にとっては、why より where のほうがより本質的 (more essential) (Bolinger 1978 : 140) なのである。

13. a And you did *why*?  
 b And so you *did it*.- OK: *but why*?

Bolinger は、a は b の 'a sort of condensation' (1978 : 135) だという。You did it という事実が確認されてから、「ところでなぜ?」と問うことができるのである。これが自然な情報の構造 (information structure) (Nishigauchi 1987 : 30) である。これが、

14. When are you going *and where*?

15. When are going, *where*?

16. When are you going *where*?

のような 'gradient' (Bolinger 1978 : 142) を通して 13.a のような形に 'condense' されていったものと考えられる。Nishigauchi (1987 : 29) は, *naze* 'why' について, 'conjoin' という言葉をつかい, まったく同じ議論をしている<sup>2)</sup>。

multiple *wh* question において, *why* が文頭にこれないというのは, *why* が文全体にかかるものであるということ, つまり, S"-*Wh* Hypothesis から引き出せるものと思われる<sup>3)</sup>。

1.3 つぎに, *why* と同じ統語的なふるまいをする *probably* をふくむ例をみてみよう。

17. a \**Did* John *probably* beat all his opponents?

Jackendoff (1972)

b *Probably* John beat all his opponents.

c *Did* John beat all his opponents?

17.b, c の文をみると, 17.a の非文の理由は, 「*probably* と疑問」の共起であることがわかる。*probably* は文全体にかかるものであるが, その前提になる文そのものが, 疑問文であり, 形のととのっていない命題に, 文全体にかかる文副詞 *probably* など発せられるはずがない (これは一つの命題に, 「蓋然性の副詞」, 「疑問」という二つの異なる心的態度の表現があるため, これらが衝突して非文となっていると考えることができる。心的態度の一貫性の必要性については葛西 (1994) を参照)。

*why*, *probably* などは, これを発するまえに, その前提となる命題が必要である。これは, ちょうど, 命題がはっきりしていないのに, それを前提として蓋然性をのべることができないのとおなじことである。つぎの例をみよ

う。

18. \* *Surely did Michael break the clock?* Chafe, W.(1970: 337)

およそ, Michael broke the clock. なる命題にたいして, その真偽をたずねる質問をしていながら, 一方では, その命題にたいして surely という強い確信をのべるということは, まさしく, 心的態度の衝突であり, 非文になるのは当然である。Chafe はこの非文について, 'presumably the speaker cannot express certainty about something whose truth he is trying to determine'(p.337) といっている。この種の問題はつぎのような形でもあらわれる。

19. \* *Did John carefully search the room?* Quirk et al. (1985: 53)

20. \* *Did John cleverly stop smoking?* Bellert (1977: 34)

John が, 部屋を搜索したかどうかもわからないのに, それを注意深くしたかときくことはありえるだろうか。John が部屋を搜索したという事実をふまえてはじめて, それが注意ぶかかったかどうかをきける。また, John がたばこをやめたのを確かめたうえで, それが利口であったかどうかを問うことができる。「われわれは, 同一の文のなかで, 質問し, かつ命題を「主張」することはできない」(Bellert : 1977 : 34) というが, 理由はおなじことである。「一度に二つ以上のことをのべてはならないという緩い制約」(Bolinger 1979 : 102) はここでもあてはまるう<sup>4)</sup>。

21. a \* *Did who come?* (cf. Who came?) Hirschbueeler (1979: 332)

b Did anyone come?

c Did he come?

b, c では, それぞれ, 「誰かがくることになっている」, 「彼がくることになっている」という前提があると考えられるが, a では, 誰かくるかわから

ないのに、その人がきたかどうかを聞いている。b, c が yes/no 疑問で、一つのことを聞いているのに対し、a では、誰かもしらないのに、その人がきたか、と yes/no 疑問と、wh- 疑問を同時に聞いている。誰かくるのかを、聞いてその答えがわかってから、「それで、きたのは誰か」と聞けるはずである。yes/no 疑問は、why とおなじく、他の wh- に回答されたあとで発される質問である。

Why ... wh- ...? が許容されない一つの理由はつぎのように考えられる。

why は probably とおなじく、それのおもむく文がないかぎり、発することはできない。その文をつくる who, which, where などにたいする答えが与えられた時はじめて why, probably が発せられるのである。質問するには、聞く順序 (order) というものがある (Hirschbueeler 1979: 32)<sup>5)</sup>。why ... wh-? はこの順序をおかすので、非文をつくると考えられる。

## 2. つぎに、Sorting Key Hypothesis について

複数の wh- がある場合には、その最初の wh- は、「選り分けの鍵」(sorting key)になるものでなければならない、という 6. の仮説によると、22. a, b に対して、

22. a *What students did they give A's to in which subjects?*

b *In which subjects did they give A's to what students?*

23. a They gave A's to *Peter Herman* in geometry, biology and English, to *Mary Murphy* in history and music, ....

b In *geometry*, they gve A's to Peter Herman, Mertha Mooney, and Dave Isenberg, in *history* to Mary Murphy and Alice Jamison, ....

それぞれ、23.a, b のような答えがありうる。しかし、



24. a ?/?? *Why* did you buy *what*?

b ?/?? *How* did you do *what*?

に対しては、

25. a ??Because of hunger, I bought bread and butter, because of necessity, I bought furniture and clothes, because of vanity, I bought jewelry . . . .

b ??In a carefull manner, I drove the car, in a gracious manner, I talked to Mary and drank a cup of coffee.

という 'the strangeness of the organization of the relevant information' (Kuno/Takami(1992 : 116))をもつ文しかできない。そこで、*why/how ... wh-?*の文は、Sorting Key Hypothesisで排斥できるとした。

しかし、ここでも重要なことがすりぬけている。「このような *why* できく質問はなぜ奇妙 (strange) な組み立ての回答をひきだすことになるのか」ということである。

これに関連してつぎの文をみよう。

26. a *Why* don't you eat?

b \* *When*/\* *Where*/\* *What* don't you eat?

*why* にたいする答えは簡単にできるが、*when*, *where*, *what* を含む否定の質問にたいする答えは前もって、いくつかの選択肢のリストがなければ、無数の場合をあげなければいけないことになる。ここでは、ちょうど表題の

27. ?/?? *Why* did you buy *what*? (= 24. a)

に対する答えが奇妙であるというのとまったく同じことになる。Sorting

Key Hypothesis には, 'in multiple *wh* question' という条件があるが, 実は奇妙な組立の回答を導くのは, なにも multiple *wh* question にたいしてだけおこる問題ではないのである。一口で, 特定の答えられないような疑問文であるために, 奇妙な組立の回答を出さざるを得ないことになる。このことは, multiple *wh*- であれ, 単一の *wh*- であれ, 聞き方が特定のでないときには, いつでもおこる類の問題である。why... *wh*-? が許容されないのはこのためでもある。「質問はつねに特定のでなければならない」のである。Sorting Key Hypothesis もこの一部として考えるべきであろう。

3. つぎに, why は, for what reason (C. O. D.)と定義されているが

28. a *For what reasons* did you buy *what*?

b *In what manner* did you do *what*?

29. ?/? Why did you buy *what*? (= 26)

for what reasons を含む 28.a が可能なのに対して, 同義の why を含む 29 が不可なのはなぜか。why と for what reason (s) を区別しているものはなにか? ここでは, このことについて考えてみる。

28. a, b が許容されることに対して, Kuno/Takami (1992) はいう。

'it is clear that the nouns *reasons* and *manner* imply that a definite list of reasons and manner has already been provided in the discourse context. Otherwise, questions using *reasons* and *manner*, as in (118a, b=28.a, b), would not have been employed. Therefore, *for what reasons* and *in what manner*, in contrast to *why* and *how*, can qualify as keys, and therefore the acceptability of (118a, b=28.a, b) results.'

reason, manner が 'a definite list of reasons and manner' を含意するから, sorting key になりうるために, for what reasons を含む 29 は許容されるというのである。

ここですぐ思い当ることはつぎのようなことである<sup>6)</sup>。つまり, why は S" に支配され, これが文頭にくる multiple *wh*-question はできないが, for what reasons の場合は, multiple *wh* question が許容され, そのとき for what reasons は VP に支配されるということはすでにみた。しかし, 「for what reasons の場合, 'a definite list of reasons' が含意され multiple *wh*-question が許容されるということ, それが VP に支配されるということとの関係が説明されていない」。これは重要なことである。

このことに関連して, つぎのことを考えてみる。  
すでに, why は, probably がそうであるように, 文全体にかかるものであることをみた。このことを考える糸口として Greenbaum (1969) をみよう。彼は, probably とおなじく, 文全体にかかる働きのできる *strangely* のもつ二つの使い方についてつぎのようにいう。

30. a *Strangely*, he answered the question. : *strangely*<sub>1</sub>  
 =It is strange that ...  
 b He answered the question *strangely*. : *strangely*<sub>2</sub>  
 = ... in a strange manner

一つは, 文修飾語としての *it is strange* とおなじもので, これを *strangely*<sub>1</sub> とし, 二つめは, 動詞を修飾する *in a strange manner* に相当するもので, これを *strangely*<sub>2</sub> とした。いま上でみたことを, これに比較しながら示してみる。

31.	S" disjunct	VP adjunct
<i>strangely</i>	strangely <sub>1</sub> =it is strange	strangely <sub>2</sub> =in a strange manner
<i>probably</i>	probably =it is probable	_____
<i>why</i>	why _____	_____
<i>how</i>	how <sub>1</sub> (≡ why) _____	for what reason how <sub>2</sub> =in what manner

strangely の二つの使い方にならないながら, probably, why, how についてみると上の上のようになると思われる。すなわち, probably には, strangely<sub>1</sub> に相当する it is probable はあるが, strangely<sub>2</sub> に相当するものはない<sup>7)</sup>。why には, why to がなくともわかるように, VP にかかるものはない。その役割は for what reason が担当する。how には, how come にみられるような, 文全体にかかる, かぎりなく why にちかい (Bolinger 1979: 141, Zwicky/Zwicky 1973), つまり, S" に支配される how<sub>1</sub> がある。注意しなければならないのは, how には, VP にかかる how<sub>2</sub> があることである。how to swim などの how はこれである。すでにみてきたように, how to swim の how はけっして how<sub>1</sub> ではない。Kuno/Takami (1992) では, このことがはっきりしない。

why ... wh-? が非文で, for what reason ... wh-? が許容されるのは, why が文全体にかかる, つまり, その命題があらわす事態がどうして生じたかについての一般的なゆるい問いかけである (だから, how come でもきける。しかも, 質問の順序を侵しているので, 奇妙な組立の回答がでる)。これに対して, for what reason はVだけにかかる, つまり, なぜVのあらわす動作(状態)なのか, を特定のきく問いかけである<sup>8)</sup>。これが, why はS" に, for what reason がVP に支配される理由である。V という動作をとる

からには、それに対するはっきり特定できる理由があったはずである。これを Kuno/Takami (1992) では、for what reason のときは、(why のときとちがい) 'a definite list of reasons and manner' が与えられている、と表現するのであろう。why=for what reason (s) と、辞書は定義するが、両者の機能はまったくちがうものである。28.a と 29 の許容度の違いはここからくると思われる。

4. さらに、一つの点をつけ加えておく

32. a *When* and *where* did they meet?

b *How* and *why* did it happen?

c ?*What* and *where* does she teach?

d ?*Who* and *why* did he hit?

Quirk et al.(1985: 823)

などの等位接続の可能性からすると、how と why, when と where, who と what が group をなしている(また、Bolinger (1978 : 137) でも、動詞にとって本質的でない順序として、why-how-when-where-who を与えている)。すると、who, when, where などとともに、S' に支配されるとする Kuno/Takami (1992) をもう少し精密化する必要があるかも知れない。

以上、why, probably の、両方とも文全体にかかるものであるという性質から、why は、命題のそとにあり、あとでその理由をたずねるものである、という性質上、multiple *wh*- question では、どうしても文頭よりも、文尾に来る性質をもつものであることをしめした。ほかの *wh*- に対する回答がないうちに why を問うことはおこりえない。

「質問者がなにをききたいのかわからないような質問はしない」のが普通であって、質問は、回答者が答えやすいように、順序よく、特定のすべきである。「John がなぜ、そこに行ったの」は、John が、特定のところに行ったことを知ったあとではじめて発することができる質問である。このことは、

multiple *wh* question の問題にかぎられる問題ではない。Sorting Key Hypothesis は、この種の問題として考えるべきものであろう。

最後に、*why* は S” に支配されるが、*why ... wh-?* を許さず、*for what reason* は VP に支配され、*for what reason ... wh-?* が許容される理由については、前者が、文全体について、その理由を聞くのに対して、後者は、動詞について特定のたずねる、という働きのちがいにあることをのべた。

*Why ... wh-?* が許容されないのはなぜか。一つの文には、動詞に重要な順にいくつかの *wh-* がありうるが、*wh-* のなかでも、*why* は重要性が最も低く、他の *wh-* が確かめられたあとで、はじめて発しうる質問である (*why* が文にかかるものである、とはそういうことである)。他の *wh-* が確かめられないうちに、*why* を発することは、はっきりした前提のないことに対して、それを前提にした質問を発したことになる、奇妙な回答になるのはやむをえない。「質問の順序」を侵した質問が許容されないのは当然であろう。*why ... wh-?* が許容されないのは、これは、情報量がたりず、聞き方が曖昧であるという点では、「量」、「様態」の格率をおかしているともいえ、その点では、「協調の原則」の問題でもある。

## Notes

- 1) i について Dixon (1992 : 235) につきのような説明もある。
  - i \*I don't know why to go.  
'ungrammatical since *why*, demanding clarification of the reason for entering into an activity, is semantically incompatible with Modal (FOR) TO, stating that the subject does volitionally become involved in the activity.'
- 2) i Nani-o naze kai-masi-ta ka?
  - ii Nani-o, (sosite) naze kai-masi-ta ka?
  - iii Nani-o kai-masi-ta ka? Sosite sore-wa naze desi-ta ka?i は ii と平行するものであり、また ii は iii として解釈される、という。
- 3) これは Kuno/Kaburaki の empathy とも関係すると思われる。empathy のかけやすいものほど、質問の対象になりやすいと考えられるからである。

- 4) いくつかのことを set としてきく (いわゆる list よみ, paired よみ (Nishigauchi 1987: 34), a multiple answer (Hirschbueler 1979: 46) の Who bought what where? のような文では, 三つの wh- が一つの set としてあるので, べつに考えたほうがよいかも知れない。しかし, この場合でも, それぞれの wh- は, はなされ, ゆっくり (deliberate speed) で話されるという (Bolinger 1979: 141)。
- 5) 'there is a semantic order in asking questions: first assign an interpretation to all the free variables, that is to wh-words in the sentence, then ask about the truth value of the sentence, i. e. a 'yes-no' question.'
- 6) 'a definite list' という表現について思い当ることとしてさらに付言する。Quirk et al. (1985: 819) は,
- i *What composer(s) do you like best?*  
 i' You like some composers best.  
 ii *Which composer(s) do you like best?*  
 ii' You like some/one of the composers best.
- i, ii はそれぞれ, i', ii' を前提にしているといっている。さらに, Bolinger(1978: 137) は, which は, what よりも more definite だともいっている。
- 7) probably は, 普通, 文副詞として扱われているが,
- i It was probably John who left early, and not Norman. Greenbaum (1969: 119) をみると, probably は John のみにかかっているようにおもわれる。したがって, probably が, V を修飾する例がある可能性がある。cf. Probably in Boston (=8.b)
- 8) Nishigauchi (1987) は, naze (why), dooiu-riyuu-de (for what reason) を, それぞれ a sentence operator, a quantifier としてその働きを区別している。

## References

- Bellert, L. (1977) "On semantic and distributional properties of sentential adverbs" *LI* 8-2: 337-351
- Bolinger, D. (1978) "Asking more than one thing at a time" *Questions* ed. H. Hiz Reidel Pub. Company
- (1979) *Form and Meaning* Longman
- Chafe, W. (1970) *Meaning and the Structure of Language* Univ. of Chicago Press
- Dixon, R. M. W. (1992) *A New Approach to English Grammar, on Semantic Principles* Oxford
- Greenbaum, S. (1969) *Studies in English Adverbial Usage* Univ. of Miami Press
- Grosu, A. (1975) "The position of fronted WH phrases" *LI* 6: 588-599
- Hirschbueler, P. (1979) *The Syntax and Semantics of WH-Construction* Indiana Univ.

Linguistics Club

Jackendoff, R. (1972) *Semantic Interpretation on Generative Grammar* MIT

石橋ほか (1964) 『英語語法辞典』大修館

葛西清蔵(1994)「心的態度の一貫性とその表現について」『北大文学部紀要』42-2 : 81-109

Kuno, S. (1982) "The focus of the question and the focus of the answer" *Papers for the Paracession on Nondeclaratives* CLS: 134-157

———— /Kaburaki (1977) "Empathy and syntax" *LI* 8-4: 627-672

———— /Takami, K. (1992) *Functional Grammar and GB Syntax*

Nishigauchi, T. (1987) "Some observations on NAZE" *Metropolitan Linguistics* 7: 21-32

Quirk et al. (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language* Longman

Zwicky, A. M./Zwicky, A. D.(1973)"How come and what for" *Issues in Linguistics: Papers in Honor of Henry and Renee Kahane* (eds.) B.Kachuru et al. Univ. of Illinois